

平成 29 年第 414 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

(平成 29 年 12 月 8 日 午後 1 時 35 分)

●議長 (小林幸雄) それでは、会議を再開いたします。一般質問を続けます。

通告の 6・石川広之議員。

1 横川町長の町政の考えは

議席番号 5 番・石川広之議員。

◆5 番 (石川広之) 議席番号 5 番・石川広之です。それではいつものとおりに始めさせていただきます。

今年 9 月以降、雨の多い天候で、秋の収穫作業は苦労したのではないのでしょうか。コメの作況も当初予報したよりも良くなかったです。それでも昨年に比べ価格が良いということで、農家の皆さんはちょっと一息ついたのではと思います。これからは天候の良し悪しもありますが、昨日質問にあり、また答弁にあったように、イノシシ・シカ・トリ・クマなどの被害が顕著に表れて大きくなるのではないかとされる傾向にあります。私も大きな面積をやっているもので、水稻に関しては 500 平米くらい、ソバに関しては 2 万平米くらい被害に遭いました。被害届も出していないから、昨日の件数の中には入っていないということで承知していただければよろしいです。そんなことを考えると被害は、農家がある程度自ら策を講じて稼がなければならないのかなというふうに思われる近年です。これもこれからは猟友会への参加、また罠 (わな) などの講習会を受けるなどし、被害農家と鳥獣との距離というのか、ひとつ役場の皆さんあるいは行政の皆さんと一線を引きのではなくて、直接向き合いたいなという考えを持たなくてはいけないのではないかと思います。これも被害を未然に防ぐ、町民が、昨日も言われたとおり、人間が被害に遭ってしまっただけでは、これは本当に取り返しのつかないことです。それを防ぐためにも、防ぐというよりも減らすという方向にしっかりと足を向けなければならないと思います。そんなことで鳥獣と付き合うということで、向き合っていきたいと思えます。

また来年から、米政策の中で、一反歩 7500 円の米の直接支払交付金が廃止になり、米の需給バランスが崩れるのではないかとされます。また、主食用米の生産調整を促し、国が、18 年度より主食用米の生産数量目標の配分の廃止を、ということで、うたっております。それに代わるものとして、全中など、生産者や流通業者、技術者などの全国団体組織の設立などを考え、生産調整の取組を検討するよう図っているところ、ということです。米の生産の自由はあるが、生産調整には必要としているのではないかとされます。これからの農業政策にますます注目するところではないのでしょうか。

また大きな問題となっているのが、所有者不明の土地です。2016 年には 410 万ヘクタール、約九州と同じ面積が既に所有者不明とのことです。これが 2040 年になると現状の 1.8 倍、約北海道と同じ面積、720 万ヘクタールに拡大すると、所有者不明土地問題

平成 29 年第 414 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

研究会は推計しています。当町では、国調も進み他市町村に誇れる対応をして、それぞれ決算審査の中でも委員会の中で担当者が言われたように、誇れる国調であって、事業の進め方をしますということは言われたので、今のところ信濃町は心配がないと思われませんが、その中には所有者不明の農地が 98 万ヘクタール、農地全体の約 2 割を占めているそうです。国は利用権設定要件を緩和するように考えているようですが、これからはこのような動きも対応しなくてはと、迫り来る課題として考えなければいけないのではないのでしょうか。

また少子化が進み、小中学校生の減少、学級数の減などが、高校への影響が見えてきました。今年 8 月に県より、県立高校「学びの改革」として、これからの高校の在り方、学級数について、座談会として報告がありました。ここは信濃町ですから、第 3 学区です。現在第 3 学区では、卒業生は学区内で 2700 名いるそうです。これが 2031 年には 690 名減の 75 パーセントになると予測されています。これは出生から始まって、今の小学校 1 年生が高校に上がることを考えると、ほぼ実数ではないのでしょうか。3 学区では、これからの構造として、都市部存立高、中山間存立高と分け、2031 年には学校数の減は考えず、学級数の減が示されました。

●議長 (小林幸雄) 石川議員。

◆5 番 (石川広之) はい。

●議長 (小林幸雄) そろそろ質問に移ってもらっていいですか。

◆5 番 (石川広之) 分かりました。

その中で、吉田 2 学級、長野 2 学級、工業 2 学級、西 2 学級、商業 2 学級、東・北部が 1 学級ずつ、中条、犀峡、市立は含まれないとのことです。全 12 学級が減ということです。またこの報告の中では、私立校は含まれていません。これからも、これら市町村が抱える大きな課題になっていくのではないかと思います。

またそれぞれ、迫り来る課題だとは思いますが。

それでは、はい、質問に入ります。通告のとおり、横川町長に、町政の考えということで質問をさせていただきます。それぞれ昨日・今日にかけて、大変の多くの質問が、町長、また町政に関わる問題としていろいろ質問されました。私も質問させていただきたいと思います。

横川町長、町長となり 3 年、また 1 年後には任期満了とのことです。1 年後には、こうしてまた一般質問をしているかもしれません。そんなことを踏まえて、横川町長にお伺いします。横川町長の町制の考え方として、信頼と活力の町づくり、とあります。町長は、この掲げた思い、それぞれ町民へ届いていますか。町長、お願いいたします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

平成 29 年第 414 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

■町長 (横川正知) 石川議員さんから今、3年目を過ぎて、当初思っていた部分について町民に届いているのかと、こういうことかと思えます。私は届いているかどうかというのは、直接的な反響と言いますか、いろいろな町政懇談会等々で、町民の皆さんの御意見をお伺いするだけでございます。その辺の、届いているかどうかというのは、正確には私はなかなか、そのことでお答えすることはできないかなと、むしろ思っているところでありまして、引き続いて、そんなことで努力してまいりたいということだけは申し上げさせていただきたいと思えます。

●議長 (小林幸雄) 石川議員。

◆5番 (石川広之) 通告でいろいろと聞こうと書き出したのですが、町民の皆さんがよく私に聞く「あと1年で選挙だ」と、ここを2、3挙げてみました。その中で本当によく聞かれるのが、病院の建設という問題です。それぞれ規模、時期、具体的な話、それぞれ同僚議員の方からもたくさん質問いただき、時期あるいは規模に関しては、時期が来たあるいはそれなりの規模ということでは言われたとおりでと思います。その中で、ひとつどうでしょう、仮に、仮にという言い方はないのだろうと思えますけれども、町長、この病院建設に関しては、町長の一つの公約、あるいは一つの自分の考えとして、任期は十分に取る中で、検討するというふうに考えられますか。任期を十分に取る、どうでしょう。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 先ほども答弁をさせていただいているのですが、今、その前段として、と言いますか、基金造成をしているということで、資金的な準備も始めているのだということでもあります。そういう中で、並行して、具体的にどういう病院にしていこうかという、プロジェクトチームとして、今、検討を始めている段階であります。そんなことも含めて、やっぱり4年かそこらはかかるであろうと、こういうことですので、私の任期は来年の11月まででございますので、少なくともそういう前段取りはしっかりとやっていきたいと思っております。

●議長 (小林幸雄) 石川議員。

◆5番 (石川広之) 任期は、またいでも、やりたい、是非病院建設には関わっていただきたいなど、私は思います。

続きまして、農業についてとありますが、この中で、農業者への負担減と書かれています。農業者への負担ということ言うと、いろいろな意味で農業者への負担減というのは考えられます。政策あるいは助成金、補助金、町の考えとして新規就農者、就労者に対してのいろいろでありますけれども、これから農業者を継ぐもの、私たちは農業を

平成 29 年第 414 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

してきた苦を継がせるわけにはいかないと思います。またそういうことではなくて、これからの農業というのをどのように発展させていくか、同じ、今日も午前中ですか、振興公社に関しても一言、言われましたが、なかなか重い口であるので、振興公社というのはこうだというのは、聞き取れなかったのかなとは思いますが、それはひとつとして、また町長の考えとして、農業は、これからはどうかということをお伺いいたします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 石川議員さんも農業経営を幅広くやっておられますけれども、御案内のように、やっぱり信濃町の基幹産業というのは農業でもあるし、そしてまた観光産業でもあるわけでありまして。そういう中で特に農業政策、特に米政策が、おっしゃいましたように、来年度から大きく変わってくると、こういう状況にあるわけでありまして。そういう中で、その米の価格について、下落しないようにということで、それぞれ全国組織的にも、生産調整とは言いませんけれども、全体数量の調整をしていこうと、こういう動きがあるわけでありまして。これは、国は今、目指している方向と、果たしてどうなのかなという議論もあるところですが、しかし中山間地等々については、そういった方策を採らないとなかなかやはり難しいのではないのかなと私は素直に思っているところでありまして、そういった団体にも、全体の価格的な下落を抑えるという意味でも、有効に機能していただけるようなことも期待もしたいなというふうに思います。

そしてまた、全体的な農業からすれば、信濃町も特に県営圃場整備、昭和 46 年ごろからですか、5 年間くらいかけて竣工して今の圃場整備ができて、基盤ができたわけでありまして。以来 50 年くらいになるのですが、やはり石川議員さんも土地改良の理事長という立場もございますけれども、それぞれやっぱり農業施設もかなり老朽化してきていると、こういう中で、土地改良をされた地域、特に仁の倉方面、そしてまた今の計画では、穂波、辻屋方面、これら特に、仁の倉方面は良くなり、5 億円近くの事業費を見込み、そしてまた穂波方面も 2 億円以上ですか、というようなことを見込み、さらには辻屋も今計画をというようなことになっておるわけでございます。そうした基盤を、やはり農業としてはしっかりとまた再整備と言いますか、できるところはやっていく、それは町としても当然に負担金なりが掛かるわけでありましてけれども、そういったお手伝いはさせていただきたいということでありまして。

いずれにしても、米作りが本当にできるようにやっていく必要があるのだろうなというふうに思いますし、そういった意味では、荒廃地等々も解消に向けての努力、農業委員会もそうですが、共にそういった目標を掲げながら頑張っていく必要があるのではないかなというふうに思っております。

●議長 (小林幸雄) 石川議員。

◆5 番 (石川広之) 農業問題、これから受け継ぐ若い人、あるいはまた組織づくりをして農業を担う人、それぞれ皆さんに大きな負担が掛からない、また是非受け継げるよう

平成 29 年第 414 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

な農業の環境を作っていただいて、是非この大きな信濃町の約 2000 ヘクタールの農地が荒れないように、荒廃にならないように、進めていかれればと思います。

また、それぞれ諸政策あり、またいろいろなものは関わってくるとは思いますけれども、是非対応するべく、カットして、再三言われるように、大変忙しい産業観光課です。これからの観光も、それぞれの信濃町 1 年を通してのイベント、また農業にしても、これでやめることなく続く農業です。

その中でも、農林課の自立ということは、一つとして、観光課ですか、そちらは昔で言うと商工観光課か、両方の独立、独立という言い方もないですね、自立ですか、も考えられるか、もう一度伺いたします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 現在の産業観光課の、それぞれの独立をとということだというふうに思うのですが、前にも石川議員さんからも御質問を頂戴したと思います。これはやはり、町全体、行政組織全体の中で、今までも行政改革も含めて、そんな大きな流れの中で進めてきたということで、他の課も、言葉で言えば大課制みたいな形になってきたわけがあります。そんなことで今、産業観光課としての位置づけになってきているわけですが、これは今、現時点でも、私は農業分野、また商工観光分野と、大きくそこにもう一つ農業委員会という事務局も加わっているということでありまして、大変だとは思いますが、それぞれの課、皆、課長さん方も、大変だと思うのですが、是非そういうことですね、今までの流れを理解していただいて頑張っていたきたいのだと。つまり最終的に申し上げるのは、独立は考えていませんということです、御理解をお願いしたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 石川議員。

◆5 番 (石川広之) それぞれの課の自立は考えていないということですが、私もいろいろな所で話をしたりすると、やはり、農林課、あるいはそれぞれ担当するところ、自立を要望する町民の皆さんが多いように見られます。是非その辺の検討も、「考えていない」ではなく、是非検討をしていただければ、またそのような気分にもっていかれるようなふうにはしたいと思います。よろしくお願いします。

それではまた、これも一つ観光の面でということなのですが、町内には幾つか、本当にたくさんの観光資源があります。通告の中でも示してあるように、観光資源の一番大きなものとして、野尻湖というものがあるのではないのでしょうか。その野尻湖に対して、町の長として、町政をやっていく横川町長の考えはどうでしょうか。よろしくお願いします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 観光面での野尻湖の存在についての、どういうふうに思うかということでもあります。今お話がありましたように、2年ほど前ですか、国立公園が分離されて、妙高戸隠連山国立公園という山並みの中で、離れて野尻湖もその国立公園のエリアとして指定されておるわけでありまして。そういった意味からしても、今までの野尻湖の歴史的な流れもありますし、極めて大事な、野尻湖は、観光的にも生活の面でも位置づけとしては重要な位置だと思えます。

そういった意味では、こういう時代背景の中で、周辺の土地といいますか、町としても取得させていただいたりして、ちょっと乱開発ということもないですけども、変なふうな方向にいかないようにということで、町も土地を買い求めさせていただいたというようなこともありますし、更にイベント等々の対応にということで、一部旧小学校の跡地も舗装もやらせていただいたりして、準備を、準備といいますか、条件を整えているわけでありまして。

要は、地域の皆さんとともに、お互いにこの野尻湖をどうして今後発展させるのかという共有の認識がないと、なかなか難しいのだろうと思うのですが、今、野尻湖プロジェクトチームみたいな、地域の中で協同して頑張っている団体も出てきておりますので、そういった皆さん方中心に、それぞれまたその目的に向かって進んでいく、一步一步進んでいくことが、大事なのではないかなと思います。

●議長 (小林幸雄) 石川議員。

◆5番 (石川広之) 観光資源、生かして進めなければ。町長がよく言われるように、信濃町には本物がたくさんあります。本物もやはり世に出さなければ、本物以上の物はないということで、野尻湖の湖底にも本物がたくさん沈んでいて、やはり、世に出してやらないと光るものではないということで、是非ナウマンゾウの骨ではないですけども、是非それぞれ資源としてまた埋没することなく、是非有効活用していただいて、世に出していただき、アピールしていただければと思います。

昨日も質問された方がいて、黒姫駅あるいは妙高高原駅の、利用する人に優しい駅ということで、通告の中では言っています。昨日、副町長が信濃町では古間駅が便利と言われました。便利という内容は十分に分かっていると思います。副町長、何が便利なのか、もう一度お願いします。

●議長 (小林幸雄) 和田副町長。

■副町長 (和田勇人) 便利と言いますか、再三お話ししているように、古間駅の場合については、単線、上下同じホームですので、乗り降りがそこでできるということで、そこでの便利さというようなことです。議員は前々から黒姫駅についても、そのような形を採れないかというお話なのですけども、しなの鉄道にも再三お話しはしているのです

平成 29 年第 414 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

けれども、現実的にはちょっと、機械的なこと、人的なこと、それからダイヤ改正的なこと、それらを含める中では非常に課題が多くて、今の段階ではできないというようなお話ですので、この点については、便利になるようにまた交渉は積み重ねさせていただきます。

●議長 (小林幸雄) 石川議員。

◆5 番 (石川広之) 副町長も言われたように、これからも便利になるように交渉をしていくということです。町長、この辺について、町長はどのようにお考えですか。お伺いいたします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 今、副町長からお話、お答えがあったとおりです。付け加えて言えば、今までも、古間の駅にしても黒姫の駅にしても、電車との段差がありすぎて乗降に大変不便だということも、しなの鉄道の方にはつなげさせていただいてきたわけでありまして。北しなの線の中で、いち早く、この黒姫と古間の段差解消は、やりますということで、ようやく、ようやくという言い方は失礼なのですが、今年設計が多分終わるであろうと、来年がその具体的な工事として取り掛かると、こういうふうになってございましてので、その辺も一つずつ解消といいますか、利用しやすいところを今、具現化して進めているということでございますので、よろしくどうぞお願いいたします。

●議長 (小林幸雄) 石川議員。

◆5 番 (石川広之) ホームの改修、それぞれ来年度から段差をなくすということです。私の言うのは跨線 (こせん) 橋をなくして、エレベーターの設置もなく、一つのホームで乗降ができる、長い目で見ると経費も掛からず、負担もなく、ダイヤ改正ができればということ、これは是非長い目で、本当に長い目でいいですから、しなの鉄道に申し入れて、再三のように、焼き付くようにお願いしたいと思います。エレベーターにしても何億と掛かり、維持管理費も掛からない、それは最終的にはしなの鉄道が負担するわけではないと思います。要望された信濃町が負担する具合になるのではないかと思います。その辺を考えると、これ、一つの要望で事足りるのであれば、何度会合を開いてもそこに行き着くものになってもらいたいというふうに、私は思います。それにつけても機会あるごとに、是非この要望を訴えていただきたいと思います。一つのホームで乗降ができれば、今、1 番線と 2 番線をかさ上げして、直そうとしている世界でありますけれども、これも片方だけで済む、そういう流れの中にいければ良いと思います。是非、訴えて、訴えてというか、要望していただき、これは継続していただきたいと思います。また私も再三のようにお伺いしますので、よろしくお願ひします。

町長、最後にですけれども、もう一度お伺いいたします。来年の 12 月ですね、また

平成 29 年第 414 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

一般質問を受けますか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 未知の世界のことを言われても、私何ともお答えのしようがありません。少なくとも残り、パーセントで言えば 25 パーセントあるわけですから、この間一生懸命に取り組ませていただきたいということだけを申し上げさせていただきたいと思います。

◆5 番 (石川広之) はい、分かりました。それぞれまた町に、またあと 1 年の任期の町長に、また是非、より一層の町政に向けての活躍をお願いしたいと思います。以上をもって、私の一般質問を終わらせていただきます。

●議長 (小林幸雄) 以上で、石川広之議員の一般質問を終わります。
この際、2 時 20 分まで暫時休憩といたします。

(午後 2 時 09 分)